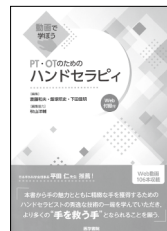


斎藤 和夫, 飯塚 照史, 下田 信明 (編), 秋山 洋輔 (編集協力)

## 動画で学ぼう PT・OTのためのハンドセラピー [Web 付録付]

澤 田 辰 徳

(東京工科大教授, 作業療法士)



### ◆臨床知見に裏打ちされたハンドセラピーの新しい教科書

私の OT 人生はハンドセラピーから始まった。20 数年前に村上恒二先生 (広島大名誉教授) のご指導のもとで、本書編者のお一人である飯塚照史先生と毎夜のように学び、そして議論をしたことを今でもよく覚えている。良好な術後成績にはよい手術とハンドセラピーの両者が必要であることを、さまざまな機会に耳にした。その後、私は手外科分野を離れたのだが、人生で一番熟読した医学書は手外科分野のものであることは今でも変わらない。私にとってこの分野は「腑に落ちる (答えがある)」ものが多く、書籍を読むことで時に感動すら覚えた。

本書はハンドセラピストのための書籍とされている。私自身すでに門外漢と思いつつも、一通り目を通させていただいた。本書はハンドセラピーの基盤である機能解剖をまず詳説し、ハンドセラピー特有の評価を網羅している。これ

は初学者の理解を深めることに最適である。治療に関しても、関節可動域訓練や物理療法等を知見も踏まえながら提示しており、さらに多数の事例提示がなされている点は、初学者のみならず熟練のハンドセラピストにとっても有用な知見になると思われる。このような、初学者にも臨床家にとっても、かゆい所に手が届く本書の構成は、編者の先生方の顔触れを考えれば納得の構成であるといえる。また、QR コードから Web 動画にアクセスし視聴して学べることは最大の利点の一つであろう。動画によるイメージは理解を促進するため、多くのセラピストがスマートフォンで QR コードを読み取り、学びの一助とする姿が目に見え、浮かぶ (特に装具作製)。

私は、本書の対象読者はハンドセラピー領域にとどまらないと思う。ハンドセラピーの主な関心事である拘縮やその改善のための知識は、他の疾患領域のセラピストももつべき内容である。さらに、

装具に関しては、廃用予防のみならず、近年は課題指向型訓練等を行う際に併用することで効果的な介入手段となる。したがって、本書は他領域のセラピストにとっても有用な書となるであろう。

名著とは臨床に鑑み、再現可能で理解に富むものと個人的に思う。本書を読み終えたとき、久しぶりに腑に落ちる感覚を得た。現在、偶然にも義肢装具学を教授しており、今後の講義準備にあたっては、おそらく本書を熟読することになるだろう。私が手外科領域の先人の方々から学ばせていただいたことは useful hand, つまり「作業に携わる手」を支援するということである。本書には至るところにその概念が散りばめられている。本書の帯に書かれているように、手を救うセラピストを多く輩出するためにも、多くの方に手に取っていただきたい書籍である。

B5 判 228 頁 4,200 円+税  
医学書院 刊  
☎ 03-3817-5650